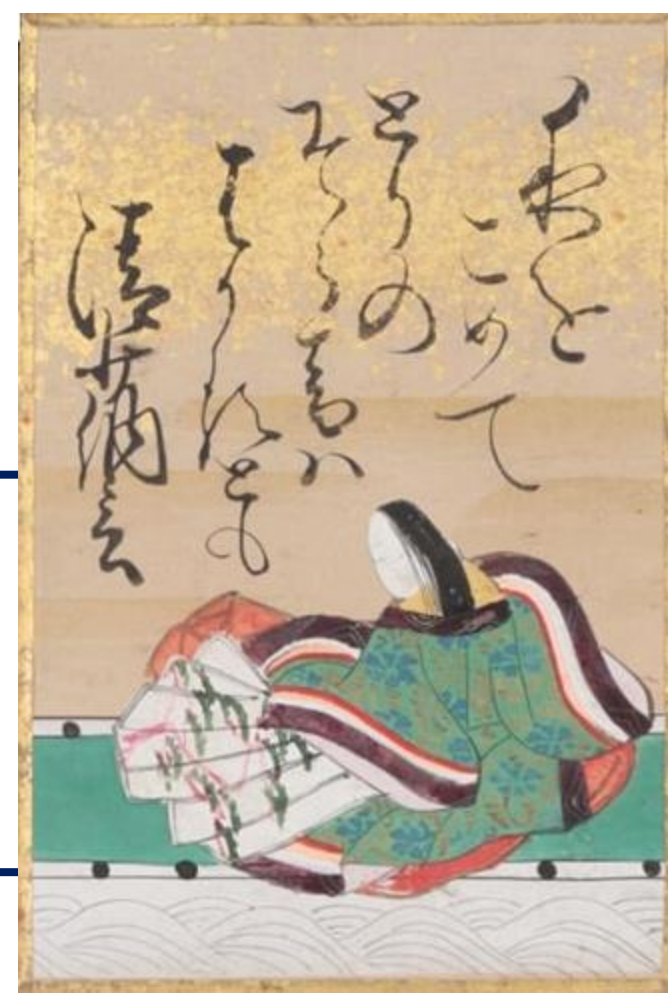


# #光る君へ いよいよ完結

## 『枕草子』の星をすべて見よう！

大河ドラマ『光る君へ』にも登場した平安時代の女房・清少納言。彼女の随筆『枕草子』には「星は」で始まる章段があります。今月、そこに登場する星々をいっぺんに見ることができるかも!? そもそも冬は明るい星が多く星空が豪華な季節。寒い時期ですが、ぜひ空を見上げてみませんか？



『小倉百人一首』の札に描かれた清少納言 ▶

### 星は昴(すばる)

『枕草子』第二百三十六段※1は「星は」で始まり、清少納言が“をかし”(趣がある)と感じた天体が4つ、列挙されています※2。最初に挙げられた昴はおうし座のプレヤデス星団、2つ目に挙げられた彦星はわし座の1等星アルタイル、3つ目に挙げられたゆふづつは宵の明星・金星のことです。最後に挙げられたよばひ星は諸説ありますが、流星(流れ星)であるというのが一般的のようです。

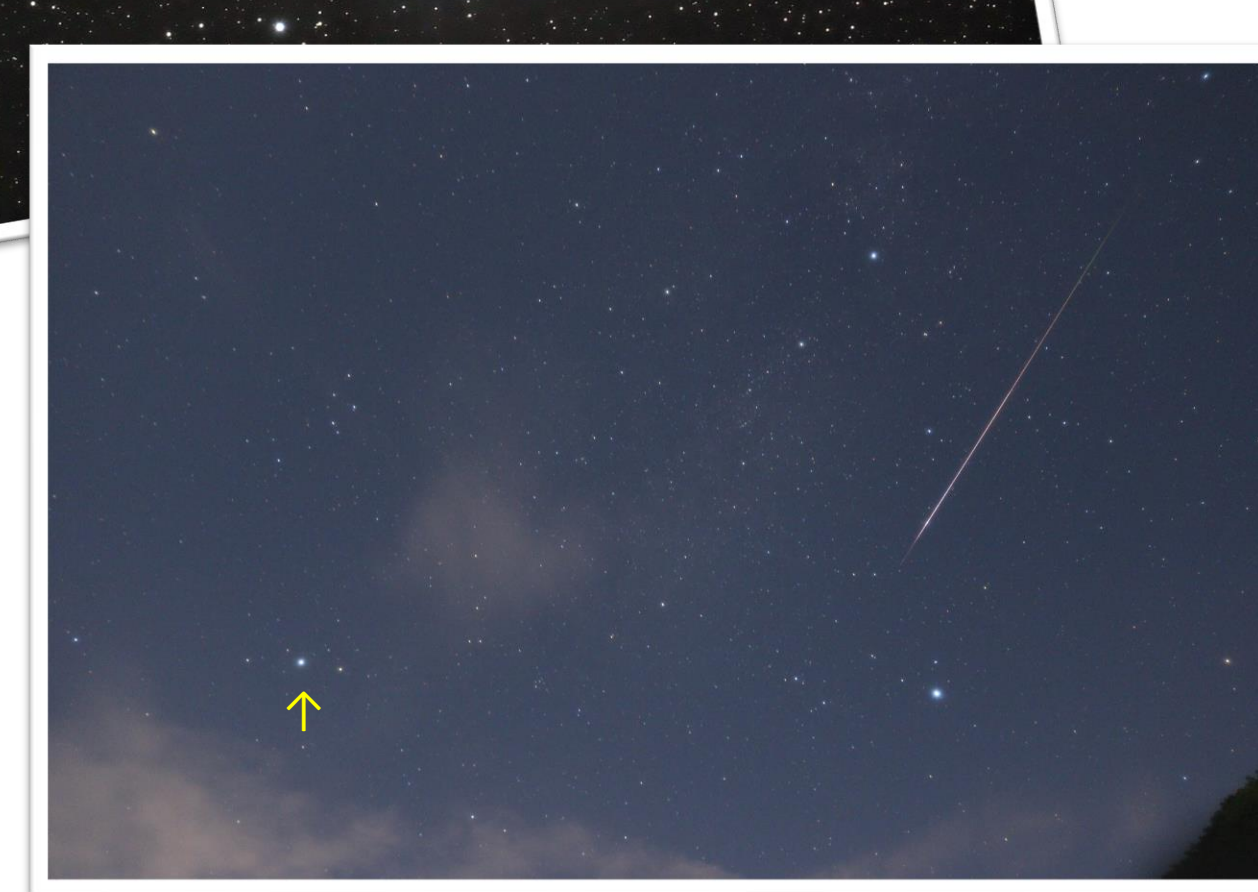
今月、18時頃に空を眺めると、西にアルタイル、南西に金星、東にプレヤデス星団と、「星は」に登場する天体を少なくとも3つを一度に見ることができます。さらに12月14日頃は、月明りの影響が大きいものの、ふたご座流星群の流星が多く飛ぶ時期ですから、空を眺めているうちに流星も見ることができるかもしれません。そうすれば「星は」に登場する天体をコンプリートできますね!

空が暗いところであれば普段でも流星を見ることはできます(12月22日頃には小規模ですがこぐま座流星群が活動します)。寒さに気をつけつつ、ぜひ清少納言が“をかし”と綴った星たちを見上げてみてください。

星は昴  
彦星  
ゆふづつ  
よばひ星  
すこしをかし  
尾だになからましかばまいて



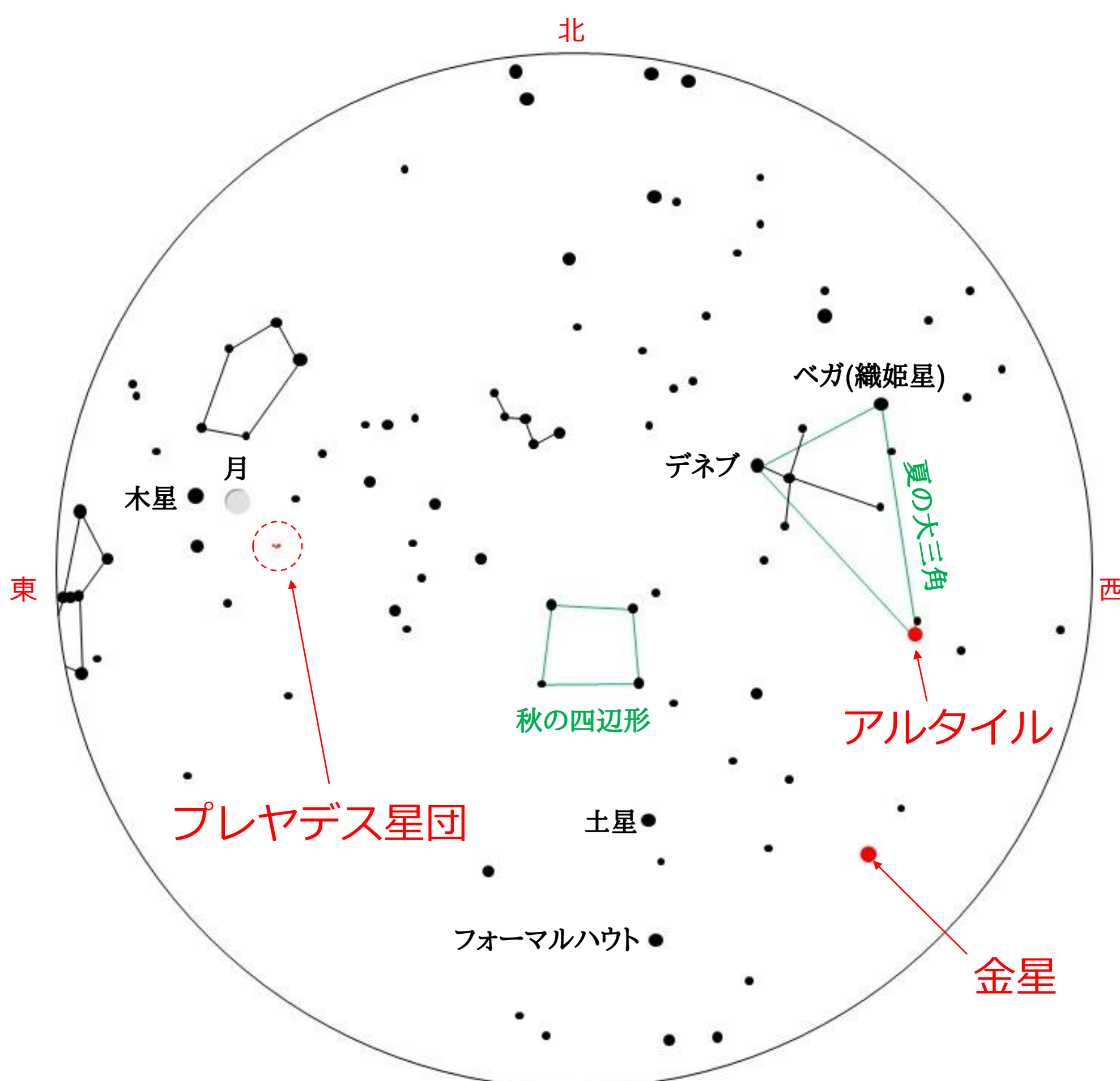
◀プレヤデス星団(すばる)  
誕生後1億年ほど経った若い星々の集まり  
©関谷育雄



▲夏の大三角(矢印の先の星がアルタイル=彦星)と流星(よばひ星)  
©秋山純代



▼宵の明星・金星



▲2024年12月14日18時の空

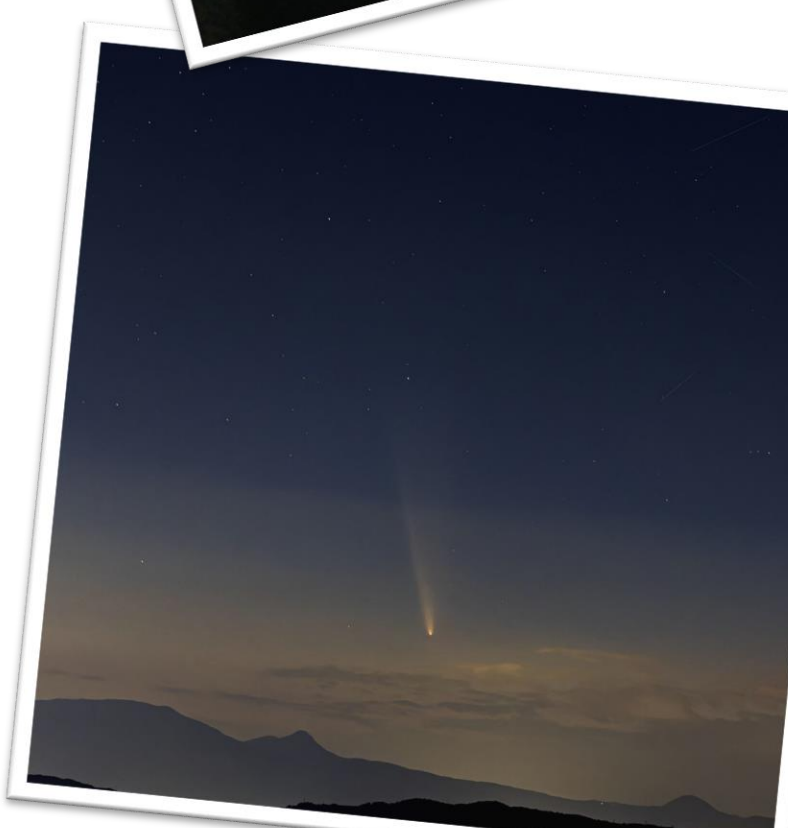
※1 『枕草子』の伝本にはいくつかの系統があり、それによって章段の数が異なる。「星は」が二百三十六段に収められているのは『三巻本』で、現在はこれを底本として本文校訂されることが多い。

※2 「星は」の章段で挙げられた天体は、実際に清少納言が見て選んだものではなく、『倭名類聚抄』(平安時代に編纂された辞書)から語感がよいものを選んだのではないかという説もある。

### 月と彗星

『枕草子』にもっとも多く登場する天体は“月”でしょう。「雲は」※3には“月のいと明かき面に薄き雲あはれなり”と綴られています。もしかしたら月光環を含むのかもしれませんが。「名おそろしきもの」※4には“彗星”が登場します。その正体は不明ですが、彗星という説も。今年は紫金山・アトラス彗星が話題になりました。それを見た人は、『枕草子』に登場する天体をまさにコンプリートしたと言えるかもしれませんね!

満月に薄雲がかかって現れた月光環



▲紫金山・アトラス彗星  
細く伸びた尾が矛に見える?  
©大井正子

※3 『三巻本』では二百三十七段。

※4 『三巻本』では百五十三段。